

令和元年3月末日

教育学部長 殿

FD 委員会委員長
福田 亘博

学生の授業外学修時間について(調査報告書)

本学部では平成26年度教育学部がスタートした時点から、教育に関して教育の質の保証・改善のため、PDCA サイクルを設定し、これを機能させるために、「学生による授業評価」及び「教員による授業点検シートによる授業改善」、「教員相互の授業参観」などを実施している。一方で、平成28年度FD報告書において、各講義・演習における教育を如何に学生に周知・理解させ、学生に知識・技能を身に付けさせるためには、学生が如何に勉強したかが重要であることから、平成27年度より、授業外学修時間の調査を行っている。平成30(令和元)年度においても同様に実施した。学修時間は学内のデータベース上にアンケート形式で、授業外学修時間数を書き込めるように設定して回答させるようにした。

その結果、4年生における授業外学習時間(1週間あたり平均35.6時間)は、教員採用試験が7月中旬に実施されることによるものと考えられた。3年生は15.4時間であった。しかし、1年生、2年生はそれぞれ8.4時間、11.9時間時間となっていた。授業外学習時間は前期に履修した単位にもよるが、設置基準等で毎日4時間以上学修する必要ある。学生は、計算上週28時間以上勉強しないといけないことになる。従って、設置基準上の授業外学修時間をクリアしているのは、4年生のみとなる。

しかし、勉強した時間のプロットを詳細みると、1年生で週に数時間しか勉強しない学生層が2年生、3年生と学年が進行するとともに減少し、勉強している学生層が確実に増加している傾向が観察された。

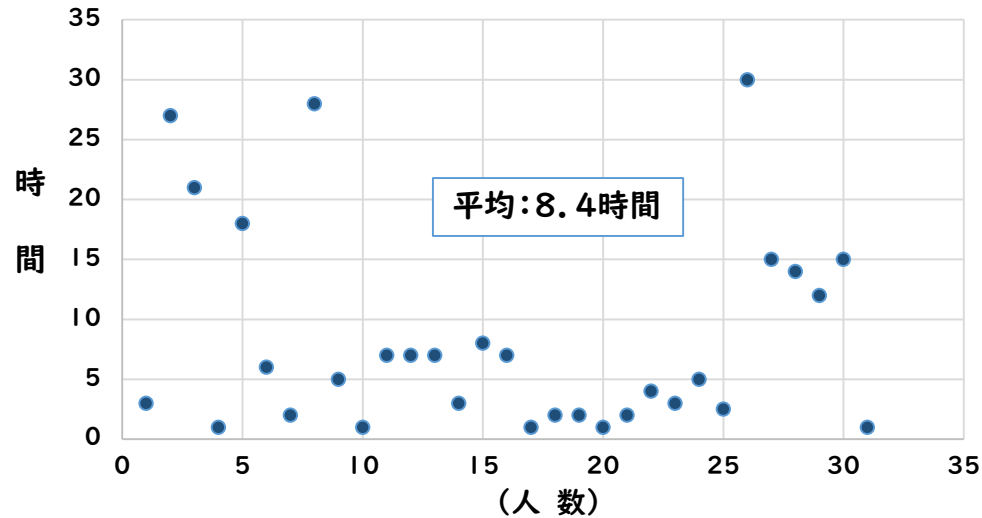
ついで、個別に学生への聞き取り等を実施した結果、アルバイト等で忙しいので勉強ができないとの学生が多かった。経済上のことでアルバイト等は基本的には禁止しているが、生活費を確保するためとの理由から、強制はできないことは言うまでもない。

一方、授業外学修時間を達成させるために、教員が担当する講義・演習では、振返りなどのためにレポート課題や小テストの実施(担当教員からはほとんどが実施しているとの回答)から、1年生、2年生における授業外学習時間が正確に測れていない可能性がある。いずれにしても、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーの実質化にあたって学生の授業外学修時間は極めて重要であることから、さらに授業外学修時間が増える方策について、さらに検討したい。

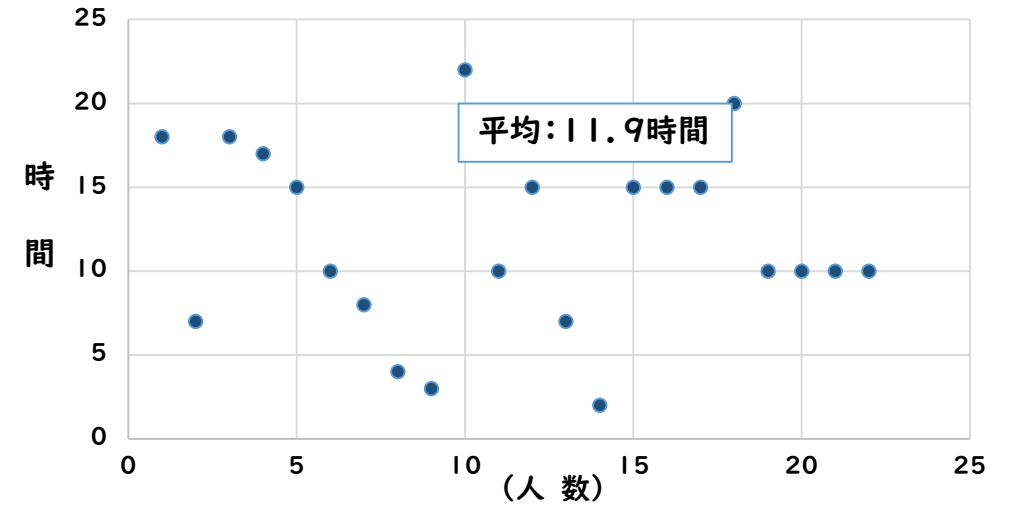
1週間あたりの授業外学習時間

集計日:平成30年7月20日~8月3日

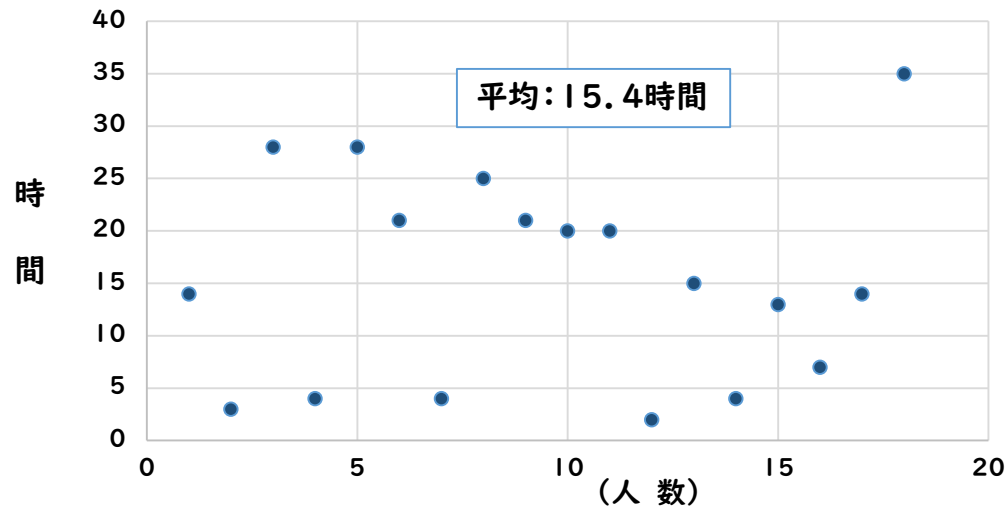
1年生:「1週間あたり」の授業外学修時間の合計



2年生:「1週間あたり」の授業外学修時間の合計



3年生:「1週間あたり」の授業外学修時間の合計



4年生:「1週間あたり」の授業外学習時間の合計

